

※委員限り※
資料3

当面の病床機能転換等の一覧（御坊保健医療圏構想区域）

No.	医療機関名	今後の役割・方向性 令和4年～5月 「2025年に向けた対応方針アンケート」より		機能転換等の内容 (一般病床・療養病床)	転換等の時期 (見込)
1	独立行政法人国立病院機構 和歌山病院	【E】 特殊な医療機能に特化した医療機関 (産科、精神科、障害者医療など)	廃止	慢性期20床及び急性期30床を廃止 <廃止後の機能別病床数> 急性期 5 5 床 慢性期 2 7 床（重心 1 6 3 床除く）	令和 5 年 1 0 月

単独病床機能再編計画

医療機関名

和歌山病院

機能区分	① 平成30年度 病床機能報告				② 令和2年4月1日時点				③ 現行（令和4年10月）				④ 病床機能再編後（令和5年10月～）			
	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数	病床数	入院基本料 又は 特定入院料	許可 病床数	稼働 病床数 (集約)
高度急性期																
急性期	2	急性期一般入院基本料4	85	85					2	急性期一般入院基本料4	97	85	1	急性期一般入院基本料4	55	55
回復期																
慢性期	4	障害者施設等入院基本料10.1	210	210					4	障害者施設等入院基本料10.1	198	198	3	障害者施設等入院基本料10.1	190	190
分類なし (休養等)		—		—		—		—		—		—		—		—
計 (一般病床+療養病床)		—	295	295		—				—	295	283		—	245	245
変更の概要									令和2年12月1日に2階北病棟（急性期42床）を休床とするが、新型コロナウイルス患者の受入のため重点医療機関としてフェーズに応じた運用を行う。 ※令和4年10月1日時点の即応病床30床				2階北病棟及び3階北病棟を廃止し、それぞれ2階南病棟と3階南病棟に集約する。集約に伴い慢性期20床及び急性期30床の許可病床を返上する。結核病床は変更なし。			

（①注） 平成30年度病床機能報告から転記する。
「病床数」は病院のみ記入する。

（②注） 令和2年3月31日までの間に病床機能・病床数を
変更した場合に記載する。

（③注） 令和2年4月1日以降に病床機能・病床数を
変更した場合に記載する。

当院における現在の病床の状況、再編理由、 構想区域の現状・課題など 【詳細】

【当院の現状】※患者数は新型コロナウイルスを除く	
・許可病床数：急性期85床、慢性期210床（重心163床）、結核15床 計310床	
・1日あたりの患者数（稼働率）：	
（令和2年度）入院 一般 64.4人/日（53.7%）	外来 58.9人/日
結核 7.6人/日（50.7%）	
重心 151.3人/日（92.8%）	※令和2年12月より一般42床休床
（令和3年度）入院 一般 62.3人/日（69.2%）	外来 68.1人/日
結核 5.8人/日（38.7%）	
重心 152.9人/日（93.8%）	
（令和4年度）入院 一般 56.4人/日（62.7%）	外来 67.6人/日
※9月迄 結核 4.6人/日（30.7%）	
重心 151.2人/日（92.8%）	
【再編理由】	
地域医療構想の実現を図る観点から、医療圏域で過剰とされる急性期病床の削減を令和5年度に実施する計画である。削減する病床数については、患者数の動向や医療圏域の医療需要及び人口推移を踏まえた病床運営を実施するため、一般病床（急性期）85床を55床にするとともに、一般病床（慢性期）210床を190床とし、計50床の許可病床数を返上する計画としている。	



病床機能再編後の当院の体制・あり方

【再編後の状況】	
・病床数：急性期55床、慢性期190床（重心163床）、結核15床 計260床	
医療圏域における将来の医療需要を踏まえた病床機能とするため、平成30年度病床機能報告の病床数に対して急性期30床及び慢性期20床を削減し、引き続き当院が担うべき政策医療として、呼吸器疾患に対する治療、重症心身障害に対する専門医療を担っていく。また、和歌山神経難病医療ネットワークの拠点病院として、神経筋疾患医療に対しても積極的に取り組むとともに、病床機能分化・地域医療連携を推進し、高齢化に伴い増加する医療ニーズに対応しつつ、効率的かつ効果的な医療提供体制を構築する。	
なお、和歌山県地域医療構想御坊保健医療圏構想区域における令和7（2025）年の必要病床数は急性期210床・慢性期234床とされているが、令和3年度病床機能報告によると急性期460床・慢性期267床あることから、当院の病床削減計画は、当該圏域の地域医療構想に資するものと考えられる。	

国立病院機構和歌山病院の病床について

- 患者数の推移及び2025年以降の御坊医療圏域の人口推移を考慮した適切な病棟運営を実施するため、病棟を再編する。
- 具体的には、現在6看護単位(310床)から4看護単位(260床)へ。
- 地域医療構想の実現に向けた取組を支援することを目的として医療機関の病床機能再編に対し交付される病床機能再編支援事業給付金を活用したい。
(病棟改修(病床拡張)工事)

【病床再編】

○令和2年12月に一般病床（急性期）30床を休床に変更

一般病床（急性期）85床 ⇒ 一般病床（急性期）55床

※現在は休床にした30床をコロナ病床として運用

○令和5年度内に一般病床（慢性期）の20床を削減する予定

一般病床（慢性期）210床 ⇒ 一般病床（慢性期）190床

上記、病床再編により一般病床50床（現在コロナ病床として運用している30床及び今後、病床再編予定の20床）を令和5年度内に廃止する方向で、国立病院機構本部、関係機関等と調整を進める。